

令和 7 年度

薬事相談年報

千葉県健康福祉部薬務課

目 次

1	相談件数の推移	・ ・ ・ 1
2	相談受付内容の状況	・ ・ ・ 2
	(1) 相談者の性別内訳と相談受付方法	
	(2) 相談内容の傾向	
	(3) 相談者への対応状況	
3	相談者の詳細	・ ・ ・ 4
	(1) 年齢別状況	
	(2) 相談対象者別状況	
	(3) 保健所（健康福祉センター）管轄別状況	
4	相談内容の詳細	・ ・ ・ 6
	(1) 相談の医薬品等種別と相談内容別状況	
	(2) 相談内容の傾向	
	(3) 苦情内容の傾向	
	(4) 薬効別医薬品相談件数	
5	啓発活動の状況	・ ・ ・ 9

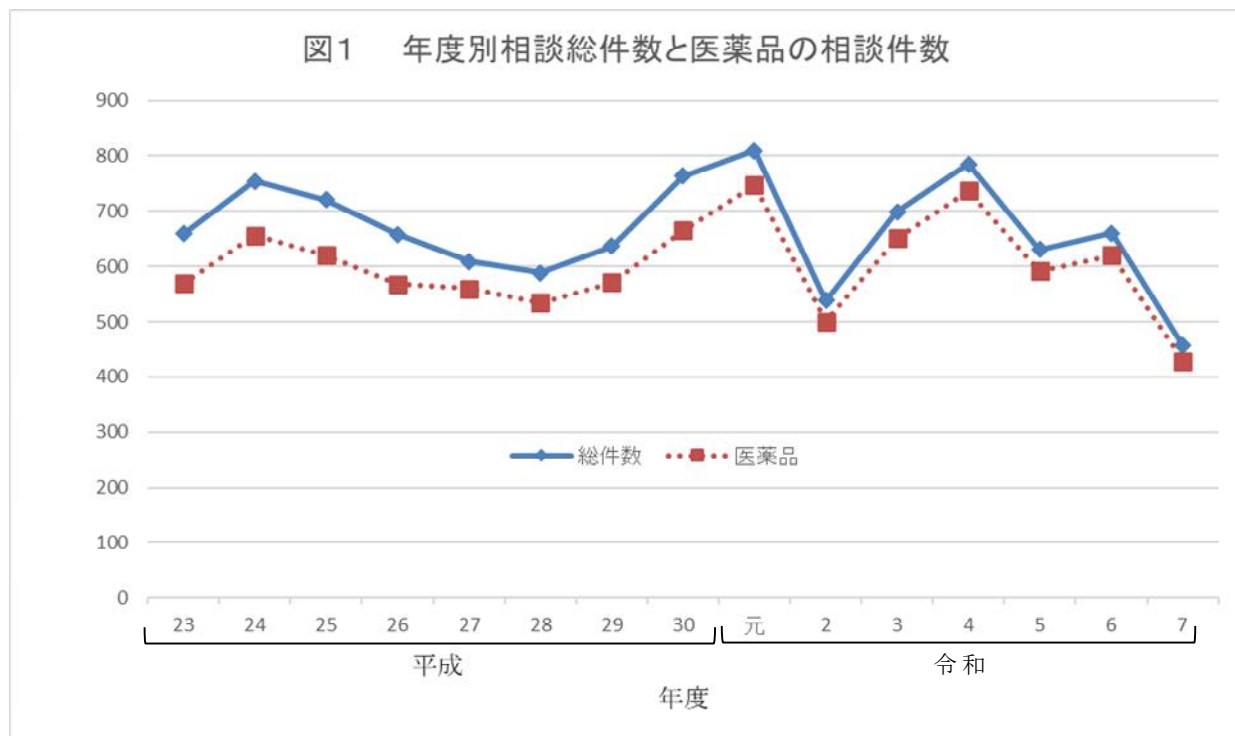
1 相談件数の推移（表 1、図 1）

令和 7 年度の相談件数は、456 件で前年度より 204 件減少しました。啓発は 1 件でした。これを相談対象種別でみると、表 1 のとおり、「医薬品」が 429 件、「医薬部外品」が 5 件、健康食品を含む「その他」が 22 件でした。

平成 23 年度からの 15 年間の推移は表 1 のとおりです。15 年間の平均でみると、年平均 665 件の相談を受けています。

表 1 相談件数の推移

年度	相談 件数	相談対象種別					啓発 回数
		医薬品	医薬部 外品	化粧品	医療機器	その他	
平成 23 年度	659	569	4	7	2	77	25
平成 24 年度	754	656	2	4	1	91	21
平成 25 年度	721	620	5	1	5	90	25
平成 26 年度	658	568	1	1	2	86	16
平成 27 年度	609	560	4	2	3	40	14
平成 28 年度	588	534	3	1	1	49	5
平成 29 年度	637	571	5	1	1	59	1
平成 30 年度	764	665	1	1	2	95	2
令和元年度	810	747	0	0	1	62	2
令和 2 年度	538	500	3	0	0	35	0
令和 3 年度	699	651	0	0	2	46	0
令和 4 年度	785	737	3	2	1	42	0
令和 5 年度	630	592	3	0	3	32	1
令和 6 年度	660	620	1	0	3	36	2
令和 7 年度	456	429	5	0	0	22	1
平均	665 (100.0%)	601 (90.4%)	3 (0.5%)	1 (0.1%)	2 (0.3%)	58 (8.7%)	8



2 相談受付内容の状況

相談を受けた 456 件の相談者の性別内訳と相談受付方法、相談内容の傾向及び相談者への対応状況は表 2 から表 6 のとおりです。

(1) 相談者の性別内訳と相談受付方法 (表 2、表 3)

表 2 相談者の性別内訳

相談者の性別	相談件数	割合 (%)
男性	137	30.0
女性	319	70.0
合計	456	100.0

表 3 相談受付方法

方法	相談件数	割合 (%)
電話	448	98.3
文書	6	1.3
面談	2	0.4
合計	456	100.0

(2) 相談内容の傾向 (表4、表5)

表4 相談区分状況

内訳	相談件数	割合 (%)
危被害	18	3.9
要望	15	3.3
照会	423	92.8
合計	456	100.0

表5 相談受付内容状況 ()内は苦情

種別 内訳	医薬品	医薬部外品	化粧品	医療機器	その他	計
危被害	18(6)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	18(6)
要望	15(15)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	15(15)
照会	396(38)	5(1)	0(0)	0(0)	22(1)	423(40)
合計	429(59)	5(1)	0(0)	0(0)	22(1)	456(61)

(3) 相談者への対応状況 (表6)

「情報提供」が409人(89.7%)、「他機関紹介」が37人、「その他」が10人でした。

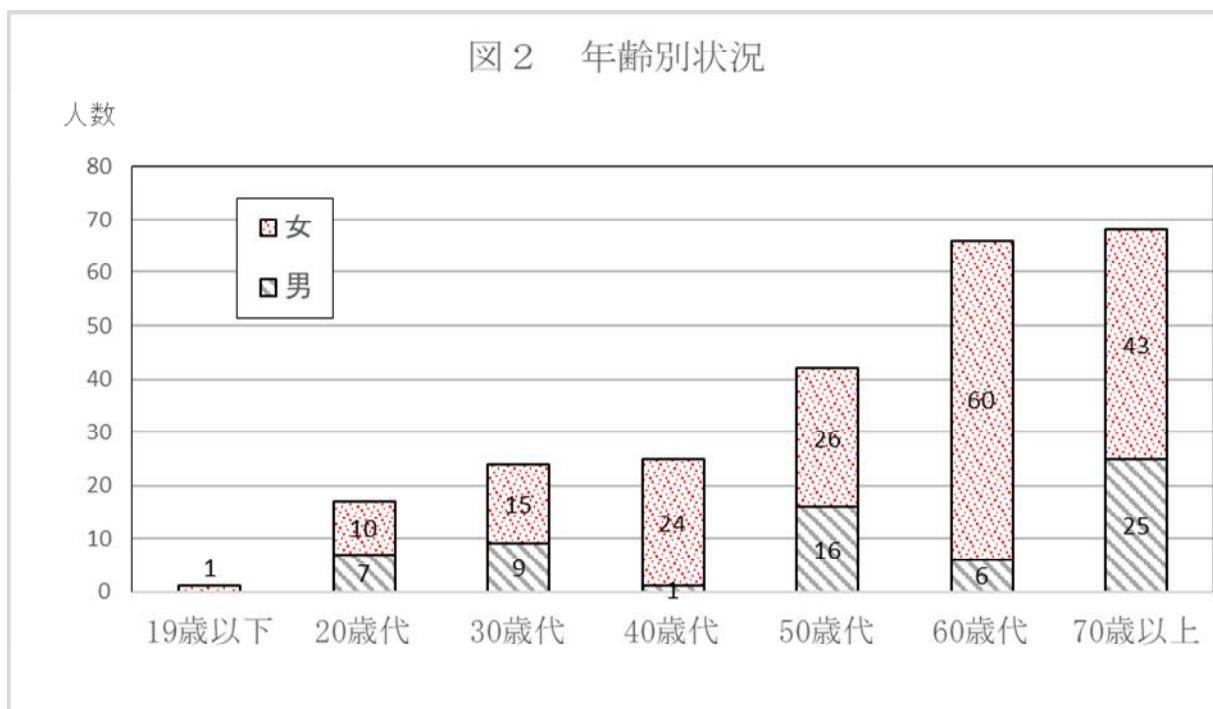
表6 内容別対応状況

区分	相談件数	割合 (%)
情報提供	409	89.7
他機関紹介	37	8.1
その他	10	2.2
合計	456	100.0

3 相談者の詳細

(1) 年齢別状況(図2)

相談者のうち、年齢について回答が得られた 243 人の年齢別状況は図 2 のとおりです。年齢別では、19 歳以下から 70 歳以上まで幅広い年齢層から相談が寄せられていますが、60 歳以上の方からの相談が多いことが分かります。全体的に女性の相談が多い傾向が見られます。



(2) 相談対象者別状況 (表7)

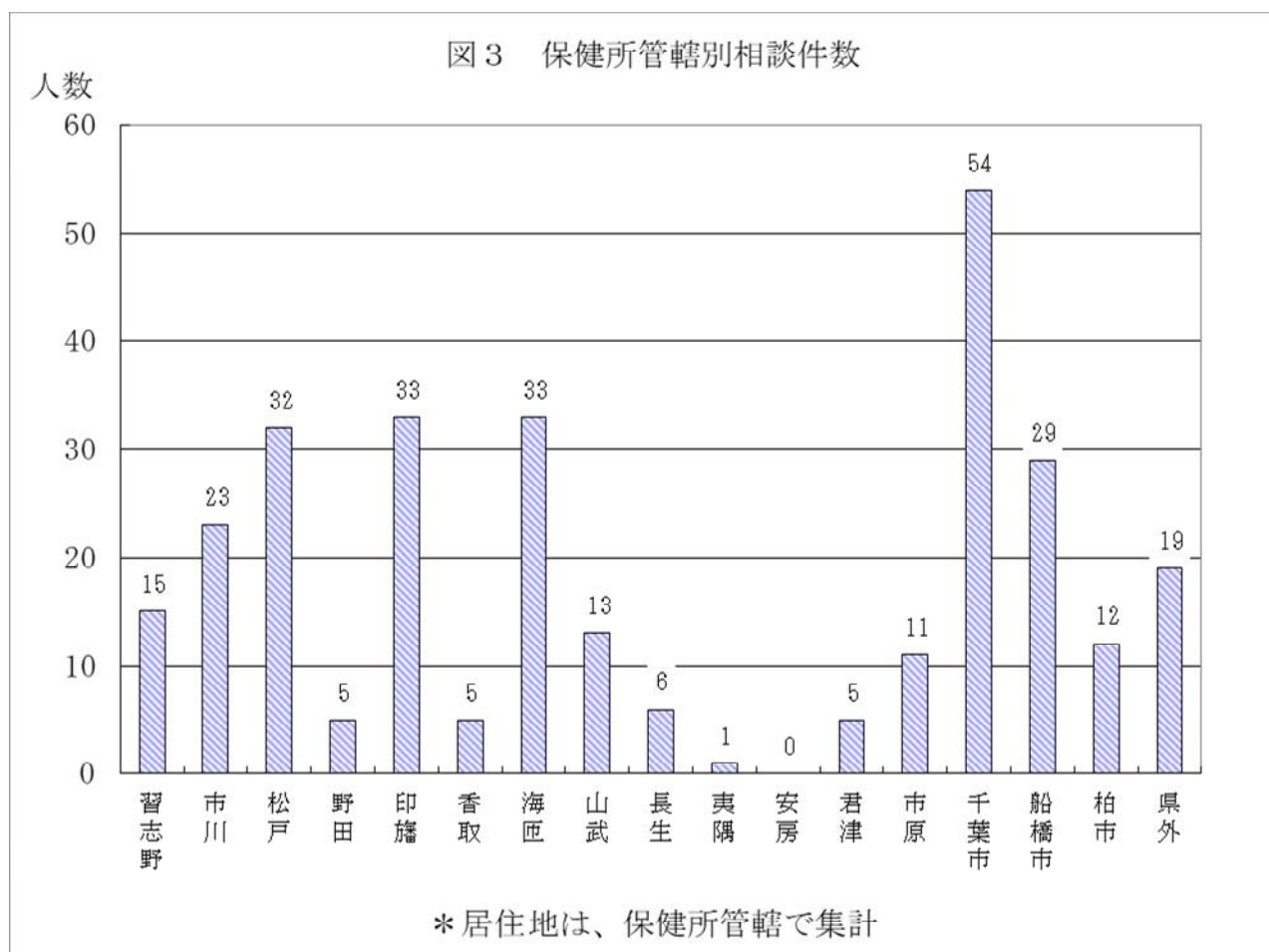
相談内容を対象者別にみると、表7のとおりです。「その他」の 17 件は医療介護関係者、消費生活センター等からの相談でした。

表7 相談対象者(当事者)別状況

対象者	相談件数	割合 (%)
本人	340	74.6
家族	99	21.7
その他	17	3.7
合計	456	100.0

(3) 保健所（健康福祉センター）管轄別状況（図3）

相談者の住所について、回答が得られた 296 人を保健所管轄別に分けると図3のとおりであり、ほぼ県内全域から相談を受けています。県外に居住する 19 人からの相談もありました。



4 相談内容の詳細

(1) 相談の医薬品等種別と相談内容別状況 (表 8)

相談を受けた 456 件を医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器及びその他の種別に区分し、さらに、その相談内容を安全性 (副作用、相互作用、毒性、誤飲)、効能効果 (効能・性能、鑑別)、品質 (成分)、使用方法 (用法・用量)、表示、販売方法、価格、広告、包装及びその他に分けた結果は、表 8 のとおりでした。

表 8 令和 7 年度相談の医薬品等種別と相談内容別状況

[]内は一般用医薬品、()内は苦情の再掲

種別 相談 内容	医薬品 [一般用]	医薬 部外品	化粧品	医療機器	その他	計
安全性 (副作用、 相互作用、 毒性、誤飲)	197(12) [14(0)]	1(0)	0(0)	0(0)	6(0)	204(12)
効能効果 (効能・性能、 鑑別)	53(3) [6(0)]	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)	55(5)
品質 (成分)	8(0) [1(0)]	1(0)	0(0)	0(0)	2(0)	11(0)
使用方法 (用法・用量)	72(6) [6(0)]	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	74(6)
表示	0(0) [0(0)]	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
販売方法	30(12) [3(0)]	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	32(12)
価格	2(0) [0(0)]	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)
広告	0(0) [0(0)]	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
包装	0(0) [0(0)]	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
その他	67(26) [5(0)]	1(0)	0(0)	0(0)	10(0)	78(26)
合計	429(59) [35(0)]	5(1)	0(0)	0(0)	22(1)	456(61)

(2) 相談内容の傾向(表9、表10)

全 456 件の相談を相談内容の傾向別に「安全性」に関する項目（副作用、相互作用、毒性、誤飲）、「有効性」に関する項目（効能・性能、鑑別）、「品質・管理」に関する項目（使用方法、品質、表示、販売方法、価格、広告、包装）と、いずれにも該当しない「その他」に関する項目に分類した結果は、表9のとおりでした。

また、「医薬品」について同様に分類すると、表10「医薬品相談内容の傾向」のとおりでした。

表9 全相談内容の傾向

	項目	相談件数	計	割合 (%)
安全性	副作用	139	204	44.7
	相互作用	49		
	毒性	13		
	誤飲	3		
有効性	効能・性能	52	55	12.1
	鑑別	3		
品質・管理	使用方法	74	119	26.1
	品質	11		
	表示	0		
	販売方法	32		
	価格	2		
	広告	0		
	包装	0		
その他	その他	78	78	17.1
合計		456	456	100.0

表 1 0 医薬品相談内容の傾向

	項目	相談件数	計	割合 (%)
安全性	副作用	137	197	45.9
	相互作用	44		
	毒性	13		
	誤飲	3		
有効性	効能・性能	50	53	12.4
	鑑別	3		
品質・管理	使用方法	72	112	26.1
	品質	8		
	表示	0		
	販売方法	30		
	価格	2		
	広告	0		
	包装	0		
その他	その他	67	67	15.6
合計		429	429	100.0

(3) 苦情内容の傾向 (表 1 1)

全相談 456 件のうち苦情を伴う相談は 61 件 (13.4%) で、その中で、危被害を伴う相談は 6 件 (1.3%) でした。「医薬品」の苦情の例としては、調剤薬局に対するものでは、処方間違い (薬、投薬量)、後発医薬品への変更確認不良、説明・対応の悪さなど、またオンライン診療に関連する薬のトラブルについてでした。医師に対するものでは、治療方針の説明不足、国・メーカーに対するものでは、安定供給問題についてでした。

表 1 1 苦情内容の傾向

区分	苦情相談	苦情を伴う危被害
医薬品	59	6
医薬部外品	1	0
その他	1	0
計	61	6

(4) 薬効別医薬品相談件数（表 1 2）

全相談 456 件の中で「医療用医薬品」に関する相談は、計 676 製品でした。相談のあった「医療用医薬品」を薬効別に分類すると表 1 2 のとおりでした。

表 1 2 医療用医薬品の薬効別相談数

番号	区分	品目
1	中枢神経系用薬	225 (33.3%)
2	循環器官用薬	83 (12.3%)
3	消化器官用薬	63 (9.3%)
4	呼吸器官用薬	43 (6.4%)
5	抗生物質製剤	36 (5.3%)
6	漢方製剤	32 (4.7%)
7	ホルモン剤	29 (4.2%)
8	その他の代謝性医薬品	27 (4.0%)
9	血液・体液用薬	25 (3.7%)
10	アレルギー用薬	22 (3.3%)
11	その他	91 (13.5%)
計		676 (100.0%)

5 啓発活動の状況

薬事アドバイザーは、通常の相談業務の他、主催者（市町村等）の求めに応じて県内各地の公民館や消費生活センターに出向き、医薬品等に関する正しい知識の普及に努めています。

令和 7 年度の啓発講座は 1 回開催し、計 13 名に対して服用する薬等についての講演を行いました。

くすり等の相談窓口（健康福祉部薬務課内）

相談日時 月曜日～金曜日（祝祭日・閉庁日を除く）
午前 9 時～午後 3 時（正午～午後 1 時を除く）

電 話 0 4 3 - 2 2 3 - 2 6 2 2

F a x 0 4 3 - 2 2 7 - 5 3 9 3